



吉子川

令和6年8月22日(木)
学校だより NO. 26
中島村立吉子川小学校
発行責任者 校長 木戸 美智子

【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

今月のいきいき中島っ子 学びの十か条 (8月)

本を読んで心に栄養
めくるページ広がる想像力

◇ 吉子川小の素敵な校風をつくる上級生！ ◇

吉子川小の素敵な校風をつくるリーダーは、6年生・5年生・4年生です。今年は、創立150周年となる記念すべき年です。上級生を中心に、新しい校風をつくっていきたいと思っています。その一つが、気持ちの伝わる挨拶「語先後礼」です。

「語先後礼」(ごせんごれい)という言葉をご存知でしょうか。これは「言葉を先に、礼を後に」という意味で、相手に対して向き合って挨拶の言葉を発してからお辞儀をするという動作です。例えば「おはようございます」、「よろしくお願ひします」といった挨拶の際に、この動作を同時に行うと、礼をしながら言葉を発してしまうため、相手を見ずに下を向いた状態での挨拶となり、相手にあまりよい印象を与えません。自分に対して丁寧な挨拶をしてくれていることが分かったら、誰でも嬉しい気持ちになるでしょう。「挨拶にまで相手への意識や感謝が込められている」ということに気付くというのは、子どもたちにとって、自分が何だか豊かに成長した気分にもなるのではないかと思います。

ただ、「語先後礼」が丁寧な挨拶だからといって、どのような場面でもこの挨拶をする必要があるかと言うと、必ずしもそういうわけではありません。場面によっては会釈程度に済ませた方がよい場合もあります。ですから「語先後礼」は、改まった場や来校されたお客様などに対し、してほしい礼儀作法です。

挨拶については、1学期までも学校全体の目標に掲げ取り組んできたことではあります。が、創立150周年を機にバージョンアップし、心機一転、改めて、本気で取り組めるように「語先後礼」を取り入れることとしました。第2学期の始業式で、初めて全校生で実施しました。とても上手にできました。これからは、上級生の子どもたちに、「語先後礼」の範を示してほしいです。挨拶名人を目指し、2学期から頑張っていきます。

